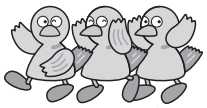


埼玉県獣医師会会報

第597号

平成25年7月20日編集

発行所
公益社団法人 埼玉県獣医師会
〒330-0835 さいたま市大宮区北袋町1-340
（埼玉県農業共済会館内）
電話 048(645)1906
FAX 048(648)1865
E-mail：s-vma@vesta.ocn.ne.jp
URL：http://www.saitama-vma.org/
振替口座 00110－9－195954番
発行責任者 髙橋三男
編集責任者 三森信行
印刷所 ㈱アサヒコミュニケーションズ

記事の内容

日本医師会横倉義武会長と髙橋三男埼玉県獣医師会会長が懇談 …… 1

平成25年度関東・東京合同地区獣医師大会（群馬）・獣医学術関東・東京合同地区学会開催案内 …… 2

台湾における野生動物の狂犬病の発生について …… 8
台湾における野生動物の狂犬病の発生に伴う狂犬病予防体制の強化について …… 9

会務報告
第1回狂犬病予防委員会 …… 10
第1回班長会議 …… 10

予告
北支部・八日会合同研修会のお知らせ …… 11
東支部学術講習会のお知らせ …… 12

ひろば
新入会員の抱負 …… 13
平成25年度　第1回政令指定都市及び東京都獣医師会連絡協議会開催される …… 14

お知らせ
埼玉県獣医師会主催第36回ソフトボール大会開催（予告） …… 15
さいたま市支部「市民講座」のお知らせ
－ペット動物の災害対策　東日本大震災の経験から－ …… 15
西支部開業関係研修会のお知らせ
－知っておくべき社会保険の知識－ …… 16

切り抜きニュース
○アライグマ被害拡大 …… 16
○銅像歴史さんぽ
－数万匹の江戸の犬を保護－ …… 17

埼玉県獣医師会学術広報版 …… 18

事務局より
事務局メモ …… 19

編集後記 …… 20

公益社団法人 埼玉県獣医師会員憲章

わたくしたち埼玉県獣医師会員は、それぞれの職域において、その責務を遂行し、県民の福祉増進に寄与するため、ここに会員憲章を定めます。

わたくしたち埼玉県獣医師会員は

1．動物の生命を守り、ひとびとの生活を豊かにしよう

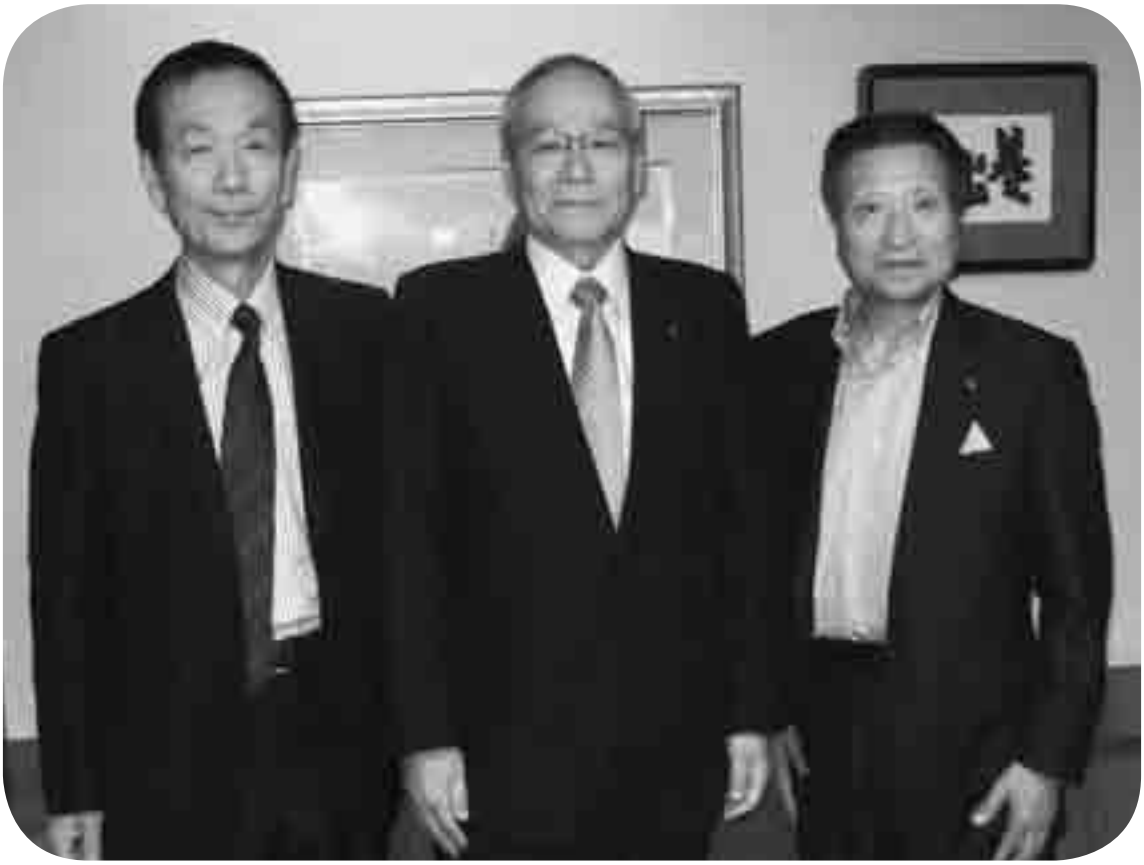
1．獣医学術を研鑽向上し、確信を持って業務に邁進しよう

1．動物愛護思想を向上し、心豊かな生活をしよう

1．環境衛生を向上し、福祉増進の実をあげよう

1．職域を尊重し、倫理の昂揚をはかろう

日本医師会横倉義武会長と髙橋三男埼玉県獣医師会会長が懇談



右から、髙橋三男埼玉県獣医師会会長、横倉義武日本医師会会長、
金井忠男埼玉県医師会会長　（埼玉県医師会会長室にて）

人と動物の共通感染症対策への適切な対応等、獣医師と医師の連携が求められる中、髙橋三男埼玉県獣医師会会長は平成25年７月２日(火)、埼玉県医師会（さいたま県県民健康センター内）会長室に於いて、日本医師会横倉義武会長並びに金井忠男埼玉県医師会会長と懇談されました。

日本医師会会長の横倉義武先生は、福岡県のご出身で、長い間、地域医療に取り組み、福岡県医師会会長、日本医師会副会長等を経て、平成24年４月、第19代日本医師会会長に就任された先生です。

また、埼玉県医師会会長の金井忠男先生は、所沢市内の臨床医であり、埼玉県獣医師会学術担当の小暮一雄副会長を始めとする所沢地区の会員獣医師の先生方とともに毎年、人獣共通感染症対策について合同学術講演会を開催する等、獣医師と医師の連携にご尽力されておりました。

このような中、この度の懇談は金井忠男埼玉県医師会長を通じて実現したところですが、特に日本医師会の横倉会長は、去る６月27日に開催された日本獣医師会第70回通常総会に於いて、山根義久前会長の後を受け新たに第11代日本獣医師会会長に選任された藏内勇夫福岡県獣医師会会長とは同郷で、日頃から大変親しい間柄でもあるとのことでもあり、懇談は和やかなうちに進められました。

これを機に、一層、獣医師と医師との緊密な連携が期待されるところです。

平成25年度関東・東京合同地区獣医師大会（群馬）・獣医学術 関東・東京合同地区学会開催案内

担当　群馬県獣医師会

区　分	関東・東京合同地区獣医師大会	日本産業動物獣医学会	日本小動物獣医学会	日本獣医公衆衛生学会
日　時	**平成25年９月８日 13：00～14：00**	**平成25年９月８日午前の部　10：00～12：00 午後の部　14：15～16：15**		
大会・地区学会長 分野別地区学会長	関東地区獣医師会連合会 会長　木村芳之	東京農工大学 白井淳資	日本大学 亘　敏広	東海大学 山本茂貴
会　場	**ホテル木暮　　渋川市伊香保町伊香保135　　TEL：0279-72-2701**			
	１階　SAKURA　１～４	Ｂ１階　飛鳥　３	１階　SAKURA　５～６	Ｂ１階　飛鳥　４
次　第	**〔大　会〕** １　開会の辞 ２　連合会長挨拶 ３　獣医師会功績者表彰 ４　受賞者代表謝辞 ５　来賓祝辞 ６　議長選出 ７　議　事 ⑴　平成24年度経過報告 ⑵　議　案 ⑶　大会宣言 ８　閉会の辞	**〔学　会〕** １．開会の辞 ２．分野別地区学会長挨拶 ３．学会・発表 ４．審査委員会 ５．閉会の辞 ６．優秀論文発表者表彰 ※　参加費：4,000円（昼食・抄録代） 懇親会：6,000円 **※　埼玉県獣医師会会員の皆さんへ 埼玉県獣医師会会員につきましては、参加費及び懇親会費ともに全て本会で負担します。（参加　無料） 当日は、埼玉県獣医師会の受付においでください。** ※　本学会は、獣医師生涯研修事業のポイント取得対象プログラムとなります。	**〔講　演〕** 1. 発表：１題８分・質問２分 2. 審査員：地区幹事・学識経験者の中から地区学会長に選任された者 3. 学会発表演題、順序　別紙のとおり （但し、発表順序は演者の都合により変わることがあります。）		
	〔市民公開講座〕 「東日本大震災から今日まで」 14：15～15：30 SAKURA			
	〔交　流　会〕 17：15～19：15 B1階　飛鳥１・２			

【タイムスケジュール】

9：00～	10：00～12：00	12：00～13：00	13：00～14：00	14：15～15：30	14：15～16：15	17：15～19：15
受　付	**学　会**	**昼　食**	**大　会**	**市民公開講座**	**学　会**	**交流会**
	動物用医薬品・機器等展示　　１階　展望ラウンジ　10：00～16：00					

[控　室]
＊　来賓・講師　　1F　蘭
＊　地方会長　　1F　萩
＊　学会長・審査員・座長　　2F　西風・緑風・風光
＊　地方会獣医師会事務局　　2F　羽衣
＊　大会本部(群馬県獣医師会)　　1F　山音

[交　通]
＊　JR上越線　　渋川駅より、バス30分またはタクシー20分　伊香保温泉にて下車
＊　関越自動車道　渋川伊香保インターより → 伊香保・榛名道路９km

◎　平成25年度日本産業動物獣医学会（関東・東京）講演演題

発表順	演　者	演　　題	獣医師会	所　属
10：10	座長　平田　昇	千葉県農業共済組合連合会		
1	神岡　哲生	放牧育成牛における性選別精液の受胎率向上への検討	群馬県	群馬県浅間家畜育成牧場
2	小林　永大	乳牛の子宮内感染を伴う卵胞嚢腫に対する子宮洗浄の治療効果	群馬県	永大獣医療サービス
3	大島　藤太	内視鏡を用いた牛子宮内の異物摘出	栃木県	栃木県畜産酪農研究センター
10：40	座長　紺野　君子	つるみ獣医科病院		
4	黒松　久	触媒燃焼方式による牛舎発酵槽脱臭について	東京都	㈱ＩＨＩ
5	堀北　哲也	宮崎県で発生した口蹄疫における防疫経験者の口述記録に関する質的研究法を用いた分析	千葉県	千葉県農業共済組合連合会中央家畜診療所
6	柴田　淑子	農場 HACCP 認証を目指す銘柄豚生産農場における飼養衛生管理向上の取り組み	神奈川県	神奈川県湘南家畜保健衛生所
11：10	座長　篠崎　隆	神奈川県県央家畜保健衛生所		
7	吉谷　一紀	乳牛の白帯病における病変部の広がりについて	千葉県	千葉県農業共済組合連合会北部家畜診療所
8	萩原　妙子	馬の皮膚と上部気道のアミロイドーシス	千葉県	千葉県中央家畜保健衛生所
9	水野　剛士	黒毛和種子牛にみられた上衣芽種の1症例	群馬県	群馬県家畜衛生研究所
11：40	座長　鎌田　健義	山梨県東部家畜保健衛生所		
10	藤田慶一郎	密飼いによるストレスが豚の生産性および免疫機構に与える影響	栃木県	栃木県県央家畜保健衛生所
11	**福田　昌治**	**過去10年間に管内で確認された搾乳牛下痢症の疫学調査**	**埼玉県**	**埼玉県熊谷家畜保健衛生所**
〈　昼食・休憩　〉				
14：15	座長　鈴木　博	東京都家畜保健衛生所		
12	二宮　歌子	牛の呼吸器病5種混合ワクチン接種プログラムの検討	山梨県	山梨県東部家畜保健衛生所
13	長井　誠	銅金属から溶出した銅イオン濃度と殺ウイルス効果の検討	東京都	東京農工大学
14	川西菜穂子	豚の反芻獣ペスチウイルス感染事例におけるウイルス検査について	茨城県	茨城県県西家畜保健衛生所
14：45	座長　足立　憲隆	茨城県飼養技術研究室		
15	田中　秀和	BLV 遺伝子量によるリスク評価と吸血昆虫に対する BLV 遺伝子検索を用いた牛白血病清浄化対策	千葉県	千葉県農業共済組合連合会北部家畜診療所
16	罍　玲子	ホルスタイン種搾乳牛に認められた急性好中球性白血病	栃木県	栃木県県南家畜保健衛生所
17	髙梨　資子	遺伝子検査によるオーエスキー病ウイルスの野外株とワクチン株の識別	群馬県	群馬県家畜衛生研究所
15：15	座長　磯　日出夫	磯動物病院		
18	南波ともみ	一酪農場における牛サルモネラ症発生事例	東京都	東京都家畜保健衛生所
19	田邊ひとみ	Mycoplasma hyorhinis の関与が疑われた豚のマイコプラズマ肺炎事例	茨城県	茨城県県北家畜保健衛生所

◎　平成25年度日本小動物獣医学会（関東・東京）講演演題【Ａ会場】

発表順	演　者	演　　題	獣医師会	所　属
10：10	座長　亘　敏広	日本大学		
1	小山田　尚	イヌの皮膚過伸展との疾患に関する考察	群馬県	エル動物病院
2	朝岡　秀行	イヌの関節可動域亢進症治療における循環 TGF の測定意義	群馬県	エル動物病院
3	桑原　正人	イヌの関節可動域亢進症の診断と新規薬物治療の奏効性	神奈川県	日本大学
10：40	座長　田村　幸生	タムラ中央動物病院		
4	馬場　智成	非皮膚科的身体因による痒み行動を呈した犬の３例	会員外	どうぶつの総合病院
5	佐藤　祐	胸腺腫の猫に見られた剥脱性皮膚炎の１例	川崎市	日本動物高度医療センター・川崎市
6	柴田久美子	ビデオオトスコープを用いた犬の外耳道炎の13例	横浜市	DVMs どうぶつ医療センター横浜
11：10	座長　平尾　秀博	日本動物高度医療センター		
7	中清水　義	非再生性免疫介在性貧血が疑われた犬の１例	栃木県	栃木街道どうぶつ病院
8	小野原　望	猫の不整脈源性右室心筋症の一例	千葉県	すとう動物病院
9	湯沢　綾	外科的整復を実施した心室中隔欠損症を伴う右室二腔症の犬の1例	神奈川県	麻布大学附属動物病院
〈　昼食・休憩　〉				
14：15	座長　難波　信一	マーブル動物医療センター		
10	宮本　修治	犬の食道内異物閉塞51例における閉塞解除後の内視鏡下食道粘膜損傷度分類と閉塞時間・臨床症状・合併症との相関についての回顧的研究	横浜市	DVMs どうぶつ医療センター横浜
11	早川　武	自律神経失調症（Dysautonomia）と診断した猫の1例	神奈川県	日本大学動物病院
12	山崎　寛文	経皮経肝胆嚢吸引法により早期診断が可能であった胆嚢炎の犬の1例	川崎市	日本動物高度医療センター・川崎市
14：45	座長　寺内　利恭	かつらぎ動物病院		
13	片野　浩二	犬の難治性口内炎に対して抜歯を余儀なくされた３症例について	群馬県	かたの動物病院
14	眞田　靖幸	飼鳥における鳥クラミジア症の疫学調査	千葉県	小鳥の病院 BIRD HOUSE
15	村田　佳輝	千葉県における犬のレプトスピラ症	千葉県	千葉県獣医師会感染症委員会
15：15	座長　山口美知雄	山口動物病院		
16	**灰井　康佑**	**保冷剤の誤食によりエチレングリコール中毒を起こした犬の１例**	**埼玉県**	**とがさき動物病院**
17	金谷　興一	群馬夜間救急動物病院の１年間の傾向と必要性	群馬県	群馬夜間救急動物病院

15：35　座長　武部　正美　武部獣医科病院				
18	小菅　弘章	認知症状を有する犬および猫へのフェルガード®100M 投与に関して	横浜市	小菅獣医科病院
19	狩野　友秀	一難治性疾患に対するパンフェノンＳ（ピクノジェノール含有）の効果	群馬県	中居動物病院

◎　平成25年度日本小動物獣医学会（関東・東京）講演演題【Ｂ会場】

発表順	演　者	演　　題	獣医師会	所　属
10：10　座長　市川陽一朗　いちかわ動物病院				
1	小林　義崇	ビスコエクストラクション法による水晶体嚢内摘出術を実施した水晶体脱臼のイヌの７例	横浜市	DVMs どうぶつ医療センター横浜二次診療センター眼科
2	齋藤　陽彦	イヌの裂孔原性網膜剥離整復術の術後成績	東京都	トライアングル動物眼科診療室
10：30　座長　諸角　元二　とがさき動物病院				
3	小林　聡	ミニチュア・ダックスフンドとウェルシュ・コーギー・ペンブロークの椎間板ヘルニアについて	横浜市	ONE for Animals・横浜市
4	稲村　真治	猫の椎間板ヘルニアの１例	群馬県	稲村動物病院
10：50　座長　望月　学　東京大学				
5	森　淳和	トイ・プードルの前腕骨折に関する回顧的検討	横浜市	ONE for Animals・横浜市
6	上野　弘道	先天性肩関節脱臼に対し各種観血的整復を行った一例	東京都	麻布十番犬猫クリニック、日本動物医療センター
7	種子島貢司	脛骨骨折にロッキングコンプレッションプレート（LCP）を用い最小侵襲プレート骨接合術（MIPO）を実施した8症例の回顧的検討	神奈川県	日本大学獣医学科
11：20　座長　武藤　眞　ヤマザキ学園大学				
8	長谷　往明	尿管結石による尿管破裂に対して外科手術を実施して罹患腎を温存できた犬の１例	千葉県	はせ動物病院
9	青木　大	両側尿管閉塞に対し腎瘻造設術を実施した猫の１症例	神奈川県	あおき動物病院
〈　昼食・休憩　〉				
10	望月　俊輔	遠位尿道に発生した移行上皮癌に対し尿道膣吻合を行った犬の一例	横浜市	DVMs どうぶつ医療センター横浜
11	寺内　幸夫	全膀胱尿道切除・尿管膣吻合術を行った移行上皮癌の犬の１例	栃木県	寺内動物病院
14：35　座長　若林一雄　若林動物病院				

12	吉田　織江	犬の副腎腫瘍の鑑別診断における Triple- phase CT 法の有用性	神奈川県	日本大学獣医学科
13	青木ひろみ	後大静脈ごと一括切除した巨大副腎褐色細胞腫の犬の１例	神奈川県	日本大学動物病院
14	中山　　功	犬の体表腫瘤に対するドライアイスを用いた新しい凍結療法の検討	神奈川県	中山動物病院
15：05　座長　髙木　俊雄　ミュウ動物病院				
15	山下　傑夫	イマチニブ耐性が発現した犬の肥満細胞腫の１例	川崎市	日本動物高度医療センター川崎市
16	坂入　　旭	心臓に浸潤したＢ細胞型リンパ腫の犬の１例	神奈川県	麻布大学附属動物病院
15：25　座長　浅野　和之　日本大学				
17	山内　晶子	胆石による肝外胆管閉塞を呈した猫の８例	川崎市	日本動物高度医療センター・川崎市
18	**北宮　絵里**	**神経症状を契機として診断された真珠腫を合併した先天性外耳道狭窄の犬の一例**	**埼玉県**	**あさか台動物病院**
19	新井　茂雄	ガス麻酔時における呼吸の簡易確認法について	茨城県	新井ペットクリニック

◎　平成25年度日本獣医公衆衛生学会（関東・東京）講演演題

発表順	演　者	演　　題	獣医師会	所　属
10：10　座長　舩渡川圭次　栃木県保健環境センター				
1	塩野　雅孝	群馬県内の豚におけるインフルエンザウイルス保有状況について	群馬県	群馬県衛生環境研究所
2	本谷　　匠	茨城県において検出されたＡ群ロタウイルスの遺伝子型別結果	茨城県	茨城県衛生研究所
3	吉野　　学	スタンプ標本を用いた免疫組織化学染色のと畜検査への応用について	千葉県	千葉県東総食肉衛生検査所
4	佐藤真紀子	血液塗抹およびスタンプ免疫組織化学的染色による迅速診断法の検討	栃木県	栃木県宇都宮市食肉衛生検査所
10：50　座長　秋山雅彦　神奈川県食肉衛生検査所				
5	安藤　直史	ヒト及び鶏関係検体から分離された Salmonella Infantis の次世代シークエンサーを使用した系統解析	千葉県	千葉県衛生研究所
6	**土井　りえ**	**サルモネラ検査における培地及び免疫磁気ビーズ（IMS）法による効率的検査法の検討**	**埼玉県**	**埼玉県食肉衛生検査センター**
7	藤戸　幸一	特定農場の集団発生例から分離された Salmonella Choleraesuis	群馬県	群馬県食肉衛生検査所
8	岩田　智明	豚のサルモネラ症の一例	神奈川県	神奈川県食肉衛生検査所

11：30　座長　斎藤　章暢　埼玉県衛生研究所				
9	舩渡川圭次	新しい病原因子を標的とした結核ワクチンの開発	栃木県	栃木県保健環境センター
10	佐藤　友美	管内と畜場搬入豚におけるメチシリン耐性黄色ブドウ球菌の保菌実態調査	茨城県	茨城県県北食肉衛生検査所
11	須藤　真登	鶏から分離された基質特異性拡張型β－ラクタマーゼ産生大腸菌	群馬県	高崎市食肉衛生検査所
〈　昼食・休憩　〉				
14：15　座長　浅川　洋美　山梨県中北保健福祉事務所				
12	渡邉久美子	牛の解体処理工程における頬肉の衛生対策について	群馬県	高崎市食肉衛生検査所
13	池永由梨子	馬の保菌および枝肉汚染調査について	山梨県	山梨県食肉衛生検査所
14：35　座長　半澤　浩幸　横浜市食肉衛生検査所				
14	遠藤健太郎	食鳥処理場内でのカンピロバクター汚染の実態	群馬県	群馬県食肉衛生検査所
15	水谷　昌代	カンピロバクター汚染対策に凍結処理は有効か	群馬県	群馬県食肉衛生検査所
14：55　座長　笠井　潔　茨城県県西食肉衛生検査所				
16	**斉藤　守弘**	***Sarcocystis fayeri* 病原性タンパク質の遺伝子及びアミノ酸配列、及び組換えタンパク質の作製とその性状**	**埼玉県**	**埼玉県食肉衛生検査センター**
17	佐藤　要介	夏休み親子見学会について	茨城県	茨城県動物指導センター
15：15　座長　岸田　一則　千葉県衛生研究所				
18	會田　雄治	殺鼠剤中毒が疑われた豚の LC/MS/MS を用いた検出事例	茨城県	茨城県県西食肉衛生検査所
19	村田　純哉	牛肉の放射性物質汚染検査における環境ラドンの影響と対策	群馬県	群馬県食肉衛生検査所

市民公開講座について

会　場　　１Ｆ　SAKURA（大会会場と同じ）
時　間　　14時15分～15時30分
演　題　　東日本大震災から今日まで　－福島県獣医師会の小動物における救護活動について－
講　師　　公益社団法人福島県獣医師会　被災動物救護対策委員長
　　千葉小動物クリニック院長　　河又　淳　先生

25日獣発第119号
平成25年７月17日

地方獣医師会会長 各位

公益社団法人 日本獣医師会
会長　藏　内　勇　夫
（公印及び契印の押印は省略）

台湾における野生動物の狂犬病の発生について

このことについて、平成25年７月17日付け事務連絡をもって、厚生労働省健康局結核感染症課から別添のとおり通知があったので、貴会関係者に周知方よろしくお願いいたします。

このたびの通知は、７月16日付けで台湾行政院農業委員会より野生動物（イタチアナグマ）において狂犬病の発生を確認した旨の公表があったことから、①感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（平成10年厚生省令第99号）に基づく動物の輸入届出制度において、狂犬病が発生していないとして厚生労働大臣が指定する地域から台湾を削除する予定であること、②狂犬病予防法（昭和25年法律第247号）に基づく台湾から輸入される犬等（犬、猫、アライグマ、きつね及びスカンク）の検疫の取扱いに関し、本日付けで別添のとおり農林水産省消費・安全局動物衛生課ではプレスリリースを行い、台湾を狂犬病の非清浄地域として扱うので、今後、台湾から犬等を輸入する場合は、非清浄地域からの輸入条件を参照し、狂犬病の予防接種や血液検査等を行う必要があること等について、各都道府県、保健所設置市及び特別区の狂犬病予防担当課宛てに情報提供したので、本会会員に周知方協力を依頼されたものです。

別添　略

平成25年７月17日
農　林　水　産　省

プレスリリース

台湾における狂犬病の発生に伴う犬等の輸入検疫の取扱いについて

農林水産省は、本日（平成25年7月17日（水曜日））より、台湾を狂犬病の非清浄地域として取り扱います。

今後、台湾から犬等を輸入する場合は、非清浄地域からの輸入条件を参照し、狂犬病の予防接種や血液検査等を行う必要がありますので御承知おきください。

経緯

昨日（７月16日（火曜日））深夜、台湾行政院農業委員会は、野生のイタチアナグマに由来する検体（脳組織）を検査した結果、狂犬病であることを確定診断した旨を公表しました。

対応

農林水産省は、本日（平成25年7月17日（水曜日））より、台湾を狂犬病の非清浄地域として取り扱います。

今後、台湾から犬等を輸入する場合は、非清浄地域からの輸入条件を参照し、狂犬病の予防接種や血液検査等を行う必要がありますので御承知おきください。
（参考）動物検疫所ホームページ非清浄地域（指定地域以外）からの輸入条件
・犬、猫の日本への輸入（指定地域以外）
http://www.maff.go.jp/aqs/animal/dog/import-other.html
・きつね、あらいぐま、スカンクの輸入
http://www.maff.go.jp/aqs/animal/fox.html
　過去６ヶ月以内に台湾から輸入された犬等を飼養されている方は、念のため、入国時から半年間は毎日の健康観察を行うよう御留意願います。
（参考）厚生労働省ホームページ狂犬病
http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou10/(外部リンク）

25日獣発第125号
平成25年７月24日

地方獣医師会会長各位

公益社団法人　日本獣医師会
会　長　藏　内　勇　夫
（公印及び契印の押印は省略）

台湾における野生動物の狂犬病の発生に伴う狂犬病予防体制の強化について

　台湾における野生動物の狂犬病発生については、平成25年７月17日付け25日獣発第119号をもって、全国地方獣医師会あてに情報提供したところです。
　この度の狂犬病の発生を受けて、農林水産省においては、台湾を狂犬病の非清浄地域として扱うこととし、台湾から犬等を輸入する場合の検疫措置を強化したところであり、この発生により、直ちにわが国への本病侵入のリスクが高まるということはないと考えます。
　しかし、わが国と同様に狂犬病の清浄国に位置付けられていた台湾において、52年ぶりに本病が発生したという事実は重く認識すべきであり、わが国における狂犬病予防体制の一層の強化が求められます。
　つきましては、この機会に本病予防の重要性に関する一般への普及啓発を強化するとともに、特に小動物診療施設においては、今春に狂犬病予防注射を接種していない犬の飼い主に対して確実に接種するよう呼びかけ、予防注射率の向上を図るよう、貴会関係会員に周知いただきたく、協力方お願いいたします。

会務報告

第１回　狂犬病予防委員会

平成25年７月10日（水）、午後１時30分から、さいたま市「大宮ラフォーレ清水園」において次の事項を協議した。

１　会長挨拶

本年度の集合狂犬病予防注射が円滑に実施でき感謝する。注射事故にあたっては現地でしっかりと対応して頂いたところだが、事故を未然に防ぎ、また、起きた場合に備えて体制を整えておくことが重要である。

本日は、本年度事業を総括して頂くなかで、今後の事業運営に活かしてもらいたい。

２　協議事項

⑴　平成25年度集合狂犬病予防注射実施報告について

実施者数329名、注射頭数111,213頭（前年比　96.8％）であり、各実施班の注射頭数及びワクチンの使用量等を確認した。

また、予防注射実施に伴う資材処理費、会場協力費等の各実施班への送金額が承認されるとともに、注射事故５件が報告され意見交換が行われた。

⑵　その他

公益社団法人移行にともなう集合狂犬病予防注射事業の諸手続きの変更等、当面する課題について協議した。

第１回　班長会議

平成25年７月10日（水）、第１回狂犬病予防委員会に引き続き、午後２時45分から、さいたま市「大宮ラフォーレ清水園」において次の事項を協議した。

１　会長挨拶

班長のご尽力により集合狂犬病予防注射を円滑に実施することができた。本年度事業の反省を踏まえて次期事業につなげて頂きたい。

近年、飼主の高度医療への要求など獣医療を取り巻く情勢は大きく変化してきており、この様な状況の中にあって、獣医師会としては会員が連帯して診療に対応できる体制を確立していかなければならない。

２　協議事項

⑴　平成25年度集合狂犬病予防注射実施報告について

先の狂犬病予防委員会で承認された各事項について報告がなされ、資材処理費等の経費については、今後、各班の口座に送金していくことが報告された。

また、注射頭数の増減やワクチンの使用方法、注射事故等について各班の実情について意見交換を行った。

⑵　その他

公益社団法人移行にともなう集合狂犬病予防注射事業の諸手続きの変更等、当面する課題について報告された。

予　告

北支部・八日会合同研修会のお知らせ

（獣医師生涯研修事業ポイント対象　カリキュラム番号　小２（２））

北支部長　大橋　邦啓
八日会会長　湯本　哲夫

北支部・八日会では、小動物における麻酔学の研修会を企画いたしました。多数の先生方の出席をお待ちしております。

日　時　平成25年８月25日（日）
13：30～17：00

場　所　熊谷文化創造館　さくらめいと
埼玉県熊谷市拾六間111－１
TEL：048-532-0002

演　題　「麻酔学について」

講　師　酪農学園大学獣医学群獣医学類
獣医麻酔ユニット
山下　和人　先生

参加費　埼玉県獣医師会・八日会会員　無料
会員以外の受講者　3,000円

東支部学術講習会のお知らせ

（獣医師生涯研修事業ポイント対象　カリキュラム番号　小３（10））

東支部長　八木　賢裕

東支部では９月15日（日）どうぶつ眼科eye vetの小林一郎先生をお招きし、明日からの眼科診療に役立つシリーズ：「犬種別眼科疾患：プードル・ヨークシャテリア」と題し学術講習会を開催いたします。

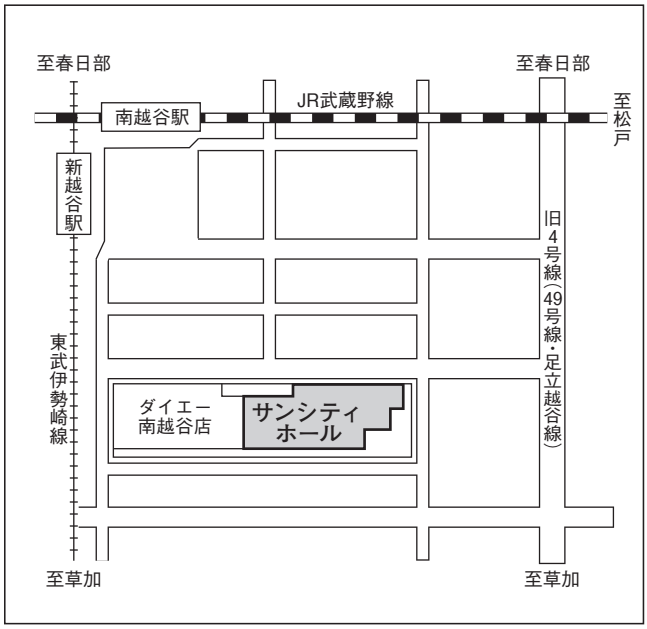
犬種別による眼科疾患の考え方、遺伝性疾患など実際の症例から系統立てて解説していただく予定です。

なお、眼科講習会という特性から配布するテキストはすべてカラーとさせていただきました。

多くの先生方のご参加をお待ちしています。

日　時　**平成25年９月15日（日）**午後２時30分～午後６時頃まで（受付午後２時～）
（講演内容、休み時間などで多少前後いたします。）

場　所　**越谷サンシティ**
〒343-0845　越谷市南越谷1-2876-1
℡048-985-1111



演　題　明日からの眼科診療に役立つシリーズ
「犬種別眼科疾患：
プードル・ヨークシャテリア」

講　師　どうぶつ眼科eye vet　小林一郎先生

参加費　埼玉県獣医師会会員　1,000円
（シラバス代、飲み物代含む）
会員以外の受講者　　5,000円
（シラバス代、飲み物代含む）

当日の講演内容の録音、録画はお断りいたしております。
皆様のご協力をお願いいたします。

（次回の予定）
10月13日（日）
講師：日本大学生物資源科学部獣医外科学教室　枝村一弥先生
演題：未定
場所：越谷サンシティ
時間:午後２時30分～午後６時頃まで

ひ　ろ　ば

新入会員の抱負

埼玉県獣医師会に入会して

東支部　黒澤　拓也
（パルム動物クリニック）

病院のマスコット猫の「こまち」とともに

昨年より埼玉県獣医師会に入会させていただきました、三郷市在住の黒澤拓也と申します。

私の出身大学は鳥取大学です。学生時代は、自然豊かな鳥取ということで、海・山・温泉と大いに満喫しました。特に、夏の晴れた日の砂丘は、まるで別世界に来たような景色に感動しました。大学では内科学教室に属し、犬・猫のような小動物だけでなく、馬・牛・羊のような産業動物の診療とも接する機会が多く、有意義な学生生活を送ることができました。

卒業後、岡山県で３年、千葉県で３年の代診を経て、昨年２月に三郷市で開業することができました。同門の先輩が近くにいない中での不安なスタートでしたが、東支部の先生方や、特に吉川分会の先生方には多くのアドバイスを頂いたり、大変よくしていただきました。大変感謝しております。また、ソフトボールにも楽しく参加させていただいており、昨年のソフトボール大会では、悔しい結果でしたが大変有意義な時間を過ごしました。

今年は狂犬病の集合注射にも参加でき、これからも埼玉県獣医師会の一員として、少しでも地域社会に貢献できるように頑張りたいと思っております。また、学術講習会を通して、獣医学的知識の向上に努めていきたいと思います。今後とも、ご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。

平成25年度　第１回政令指定都市及び東京都獣医師会連絡協議会開催される

祝辞を述べる髙橋三男会長、左は、主催された新井宣明さいたま市支部長

全国20の政令指定都市と東京都獣医師会は連絡協議会を組織し、毎年度持ち回りで、獣医師会関連業務についての情報交換会を開催しています。

昨年度は大阪府の堺市獣医師会が担当されましたが、本年度はさいたま市（埼玉県獣医師会さいたま市支部）が担当となり、去る６月30日（日）、「ラフレさいたま」に於いて開催されました。

当日は、総会のため欠席された東京都獣医師会及び相模原市獣医師会を除く19団体から56名が出席し、午後１時からさいたま市支部、直井昌之副支部長の進行により進められました。

会議では、先ず主催者を代表して、新井宣明さいたま市支部長が歓迎の挨拶、次いで来賓の髙橋三男埼玉県獣医師会長が、政令市になって12年、ここ新都心の整備を始め、これからの100年に向けて街づくりに取り組んでいるさいたま市の姿を是非ご覧頂きたい、との挨拶がありました。

続いて出席者自己紹介の後、各団体から当面する課題等として提案された、①災害対策情報網の確立について（静岡市）、②狂犬病予防事業について（神戸市、さいたま市）、③悪質な診療費未納者対策について（広島市）、④学校飼育動物事業について（さいたま市）等について、それぞれの団体からの情報提供を基に熱心な意見交換が行われるとともに、仙台市獣医師会から、東日本大震災のその後の状況について報告がされました。

また、午後５時からは懇親を兼ねた意見交換会も開催され、和やかな中で相互の交流を深めておりました。なお、次回は12月に開催する予定とのことです。

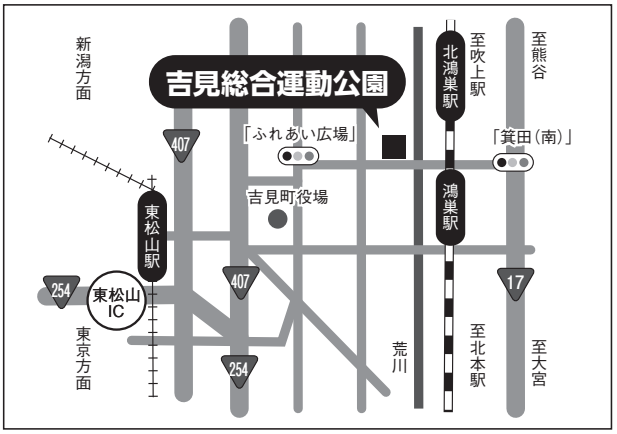
19団体が一堂に会して協議

お知らせ

埼玉県獣医師会主催　第36回 ソフトボール大会開催（予告）

第36回ソフトボール大会を下記により開催する予定です。詳細は、次号（８月20日編集）をもってご案内いたしますので、会員の皆様には、日程調整の上、振るってご参加ください。

なお、本年の大会から、永らく慣れ親しんだ「東石健保東松山総合グラウンド」を離れ、新しい会場となりますのでご注意ください。



1　日　時　平成25年10月６日（日）（予定）

2　会　場　埼玉県吉見総合運動公園（予定）

比企郡吉見町今泉141

電話：0493-54-4701

● 車を利用

⑴　関越道　東松山ＩＣから12km

⑵　国道17号　箕田南交差点から４km

● 電車、バスを利用

⑴　東武東上線

東松山駅から、バス「鴻巣免許センター（鴻巣駅経由）行き」で「古名」バス停下車、徒歩約２キロ

⑵　ＪＲ高崎線の場合

鴻巣駅から、バス「東松山駅行き」で「古名」バス停下車、徒歩約２キロ

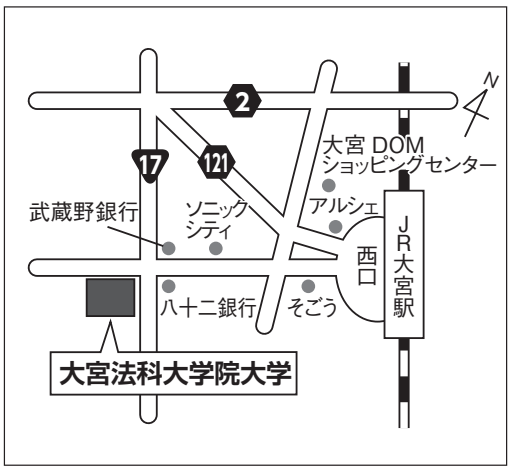
さいたま市支部「市民講座」のお知らせ

ーペット動物の災害対策　東日本大震災の経験からー

さいたま市支部長　新井宣明

さいたま市狂犬病予防協会では、大規模災害発生時におけるペット動物の災害対策について、「市民講座」を開催することとなりました。

多くの皆様のご参加をお待ちしております。



日　　時　**平成25年９月１日（日）**

14：00～16：00

場　　所　**大宮法科大学院大学講堂**

さいたま市大宮区桜木町4-333-13

※ご来場の際は、公共の交通機関をご利用ください。

内　　容

第１部　「東日本大震災時における被災地での獣医師の活動について」

講師　公益社団法人仙台市獣医師会会長

大草潔先生（大草動物病院院長）

第２部　「あなたのペットはしつけができていますか？」～日ごろからの災害への備え～

講師　さいたま市動物愛護ふれあいセンター職員

募集人員　250名

参 加 費　無料

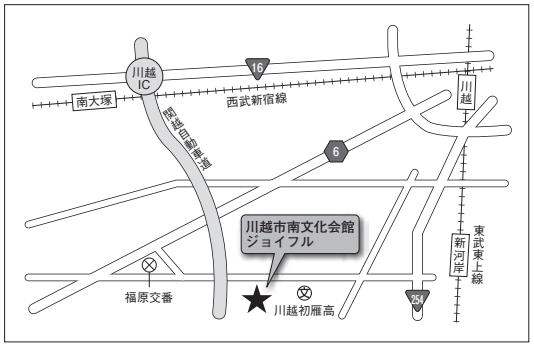
西支部　開業関係研修会のお知らせ

ー知っておくべき社会保険の知識ー

西支部長　三森信行

西支部では、８月29日（木）に森萩経営労務管理事務所の酒井裕樹先生による開業関係の研修会を次のとおり開催します。

会員の先生方、多数のご参加をお待ちしております



日　　時　**平成25年８月29日（木）** 13：30～15：00

場　　所　**川越市南文化会館「ジョイフル」**
川越市今福1295-2
電話：049-248-4115
駐車場　200台あり

研修項目　「人を雇用する立場として知っておくべき社会保険の知識」
主として労働保険を中心にお話していただきます。

講　　師　森萩経営労務管理事務所　社会保険労務士　酒井裕樹先生

参 加 費　無料

切り抜きニュース

アライグマ被害拡大

53市町村で捕獲
さいたまは207頭　12年度

特定外来生物に指定され、駆除対象となる野生のアライグマの生息域が、県内全域に広がっていることが県がまとめた2012年度市町村別捕獲数統計で分かった。捕獲数は増加傾向＝表参照＝にあり、比企郡市や秩父地域が中心だった捕獲市町村数は06年度の23から12年度は53市町村に急増。市町村別でみると、小川町の230頭、秩父市の209頭に続き、都市部のさいたま市でも207頭が捕獲された。

北米原産のアライグマは成獣で体長60㌢ほど。体毛は灰白色で目の周囲にはっきりした黒いマスク模様がある。飼っていたペットを育てきれずに手放し、野生化したのが増殖の要因とされ、農作物被害や生態系への影響が全国的に問題になっている。

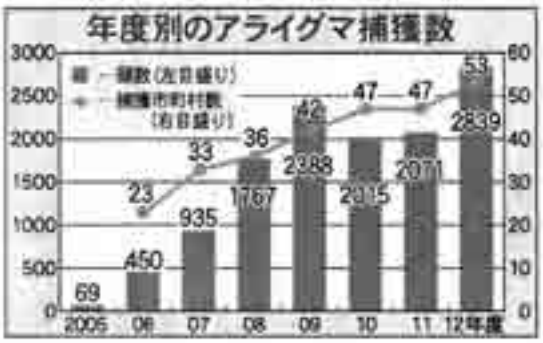
県は07年に「アライグマ防除実施計画」を策定。市町村と連携して対策に取り組んでいるが、増加を食いとどめるまでには至っていない。農業支援課によると、農作物被害は果樹と野菜がほとんどで、県内の被害総額は10年度が1458万円、11年度は2560万円に及ぶ。

捕獲は住民からの被害通報を受け、市町村が金網製のわなを仕掛け捕まえている。防除計画策定当時は関越自動車道以北の地域に被害が集中していたが、被害エリアは年々、拡大。12年度は過去最高の2839頭が捕まった。

地域別にみると、比企郡市や坂戸、毛呂山地域が最多の計1244頭。次いで飯能や日高、川越などの西部地域が計422頭。熊谷や深谷、寄居などの北部地域は計358頭。秩父地域は計309頭。南部では207頭のさいたま市のほか、上尾市で48頭、桶川市で42頭、川口市で27頭が捕獲された。春日部や久喜、蓮田などの東部地域でも計91頭が捕まり、生息域は県南東部にも広がっている。

小川町産業観光課によると「主に農作物被害の通報を受けて捕獲している。アライグマは雑食でこの時期はスイカなどが荒らされる。捕獲数は繁殖期の４～６月にかけて増えるが、今年は昨年に比べ減っている」という。

一方、都市部のアライグマの発見のされ方は北西部と異なるようだ。さいたま市環境総務課によると、「戸建ての民家の天井裏に侵入しているという市民通報が圧倒的に多い」といい、岩槻、緑、見沼、西区など市内でも農地の広がる地域から主に通報が寄せられるという。



他に県内で問題になっている特定外来生物は北米原産のカミツキガメ。数年前までペット用として大量流通していた個体が手放され、野生化した。甲長約50㌢、体重約35㌔まで成長し、かまれた場合、大けがの恐れがある。

県みどり自然課によると、県内での捕獲数は06年度から11年度まで毎年11～20匹で推移し、12年度は４匹に減少した。しかし本年度に入って２か月半余りで、既にさいたまや越谷、春日部、行田市などで計８匹が捕獲されている。

（沢田稔行）

埼玉新聞　６月30日

銅像歴史さんぽ
数万匹の江戸の犬を保護
かこい（東京都中野区）

東京都中野区の中野区役所わきに子犬を含め７匹の犬の像があり「かこい」と名付けられています。江戸時代の一時期、現在の区役所を含むこの一帯に、巨大な犬小屋があり「中野御囲」などと呼ばれたためです。

総面積は東京ドーム20個以上に相当する約100㌶ともいわれ、多いときは数万匹もの犬が収容されたそうです。1695年に開設され、えさ場や子犬の養育場なども設けられました。

こうした施設が造られたのは、「犬公方」とからかわれた江戸幕府５代将軍徳川綱吉が、動物をいじめたり、殺したりすることを禁止し厳しく取り締まった「生類憐みの令」を出したためです。

中央には子犬を抱く犬も。「かこい」と名付けられた犬たちの像＝東京都中野区の中野区役所

特に犬の保護には熱心で、犬を殺したり傷つけたりすると、死刑を含む重い罰を受けました。

江戸の町には野良犬があふれ、人々は野良犬に襲われても抵抗できず、犬をめぐるトラブルが多かったといいます。

こうしたトラブルを防止し、江戸の犬を集めて保護、飼育することを目的に造られたのが御囲でした。えさ代にばく大な費用が必要となって、江戸の町人などに負担させました。

さらに犬や牛馬、鳥だけでなく魚や虫なども取り締まりの対象となり、趣味の魚釣りや、コオロギ、鈴虫など虫の飼育も禁止されました。

現代なら、動物愛護などの取り組みとして評価されるのでしょうが、人より動物を大事にする政策で、食生活にも影響し、人々の楽しみも奪ったため、江戸の人々の評判はよくありませんでした。

綱吉は憐みの令を続けるように遺言したと伝わりますが、死後すぐに廃止され、中野御囲も約15年間で閉鎖。跡地は８代将軍吉宗が桃を植え桃園になりました。

【メモ】中野区役所はＪＲ中野駅から徒歩約３分。

埼玉新聞　５月22日

平成25年度埼玉県獣医師会学術広報版

（平成25年７月20日現在）

年　月　日	産　業　動　物	小　　動　　物	公　衆　衛　生
５月19日(日)		南第一支部・南第二支部 「僧帽弁閉鎖不全症の内科治療の限界と外科治療の可能性」 日本大学　上地正美　先生 （さいたま市　埼玉会館）	
６月15日(土) ～16日(日)	第86回獣医麻酔外科学会／第98回日本獣医循環器学会／第53回日本獣医画像診断学会 2013春季合同学会　（さいたま市　大宮ソニックシティ）		
８月25日(日)		北支部・八日会 「麻酔学について」 酪農学園大学　山下和人　先生 （熊谷市　熊谷文化創造館さくらめいと）	
９月８日(日)	平成25年度　関東・東京合同地区獣医師大会（群馬）獣医学術関東・東京合同地区学会 （群馬県渋川市　ホテル木暮）		
９月15日(日)		東支部 「犬種別眼科疾患：プードル・ヨークシャテリア」 どうぶつ眼科eye vet 小林一郎　先生 （越谷市　越谷サンシティ）	
10月13日(日)		東支部 「演題：未定」 日本大学　　枝村一弥　先生 （越谷市　越谷サンシティ）	
10月20日(日)		北支部・八日会 「麻酔についてⅡ（仮題）」 酪農学園大学　山下和人　先生 （熊谷市　熊谷文化創造館さくらめいと）	
11月３日(日)		東支部 「皮膚病が治らない！どうしたら治るか考えてみよう」 村山信雄　先生 （春日部市　春日部商工振興センターアクシス春日部）	
11月８日(金)	北支部・八日会 「牛白血病ウイルス(BLV)感染症における現状と対策(仮題)」 北海道大学　今内覚　先生 （本庄市　早稲田リサーチパークコミュニケーションセンター）		
11月17日(日)		南第一支部・南第二支部 「演題：未定」 日本獣医生命科学大学　皆上大吾　先生 （さいたま市　さいたま共済会館）	
11月24日(日)		さいたま市支部 「演題：未定」 日本大学　坂井学　先生 （場所：未定）	
11月24日(日)		西支部 「眼科疾患における点眼薬の使い方」 くにたち動物病院　遠藤雅則　先生 （川越市　南文化会館）	
12月1日(日)		北支部・八日会 「演題：未定」 日本大学　枝村一弥　先生 （場所：未定）	
12月	農林支部 平成25年度 埼玉県家畜保健衛生業績発表会		
12月15日(日)		西支部 「猫の腫瘍の化学療法」 麻布大学　川村裕子　先生 （川越市　南文化会館）	
平成26年 １月26日(日)		さいたま市支部 「演題：未定」 講師：未定 （さいたま市　With You さいたま(予定)）	
２月21日(金) ～23日(日)	平成２５年度日本獣医師会獣医学術学会年次大会（千葉） （千葉市　幕張メッセ（国際会議場））		
２月	農林支部 関東甲信越家保業績発表会		衛生支部 健康福祉研究発表会 食肉衛生技術研修会
３月23日(日)		西支部 「糖尿病診断と治療のアップデート」 東京大学　松木直章　先生 （川越市　南文化会館）	

事　務　局　メ　モ

ホームページ会員専用ページ　入室は　URL　http://www.saitama-vma.org/

ID：SVMA（半角・大文字）　パスワード：MITSUO（半角・大文字）

6月20日　第34回関東しゃくなげ会研修会（東京都台東区　上野精養軒）

6月27日　第70回日本獣医師会通常総会（東京都港区　明治記念館）

6月28日　埼玉県狂犬病予防協会役員会（桶川市さいたま文学館）

6月30日　政令指定都市及び東京都獣医師会連絡協議会（さいたま市　ラフレさいたま）

7月10日　第1回狂犬病予防委員会（さいたま市大宮ラフォーレ清水園）

7月10日　第1回班長会議（さいたま市　大宮ラフォーレ清水園）

7月11日　第26回動物感謝デー企画検討委員会（東京都港区　日本獣医師会）

7月12日　平成25年度全国獣医師会事務・事業推進会議（東京都港区　ホテルフロラシオン青山）

7月14日　平成25年度第2回関東・東京合同地区獣医師会理事会・幹事会（群馬県高崎市　高崎ワシントンホテルプラザ）

7月17日　第48回埼玉県狂犬病予防協会定期総会（さいたま市　埼玉県農業共済会館）

7月25日　損害評価会全体会議（さいたま市　埼玉県農業共済会館）

7月26日　畜産フェア2013（仮称）実行委員会（熊谷市　埼玉県農林総合研究センター）

8月1日　第1回厚生委員会（比企郡吉見町　吉見総合運動公園）

8月25日　北支部・八日会合同研修会（熊谷市熊谷文化創造館さくらめいと）

9月8日　平成25年度関東・東京合同地区獣医師大会（群馬）、獣医学術関東・東京地区学会（群馬県渋川市　ホテル木暮）

9月15日　東支部学術講習会（越谷市　越谷サンシティ）

10月13日　東支部学術講習会（越谷市　越谷サンシティ）

10月20日　北支部・八日会合同研修会（熊谷市熊谷文化創造館さくらめいと）

11月3日　東支部学術講習会（春日部市　春日部商工振興センターアクシス春日部）

11月8日　北支部・八日会合同研修会（本庄市早稲田リサーチパークコミュニケーションセンター）

11月17日　南第一支部・南第二支部合同学術講習会（さいたま市　さいたま共済会館）

11月24日　さいたま市支部学術講習会（場所未定）

11月24日　西支部学術講習会（川越市　南文化会館）

12月1日　北支部･八日会合同研修会（場所未定）

12月15日　西支部学術講習会（川越市　南文化会館）

平成26年

1月26日　さいたま市支部学術講習会（さいたま市　With Youさいたま（予定））

2月21日～23日　平成25年度日本獣医師会獣医学術年次大会（千葉）（千葉県千葉市幕張メッセ、アパホテル＆リゾート東京ベイ幕張）

3月23日　西支部学術講習会（川越市　南文化会館）

編集後記

短かった梅雨が明け、熱中症の注意予報が絶えないでいる。暑い！

異常気象と言う言葉が使えなくなるほど最近の地球規模での気候の変化はおかしい。

氷河紀や白亜紀の太古の昔にもこうやって少しずつ変わっていったのであろうか？

50年位前までは原発や石炭、石油、シェールガス、メタンハイドレードなどは地球の蓄えだ、あるからって使って良い物か？そして人類のお荷物になるかも知れない原発だ、異常気象や地震など自然が成す業なので分るはずはないが、このままでいいのだろうか？

先日開催された県獣の総会で、御登壇を皆さんが心配されたのをよそに、お元気に五十嵐幸男名誉会長がご挨拶された。次々お話になる言葉が大変しっかりされておられ、年配の方々までも、まだまだと思ったに違いない。

私事であるが、最近特に食欲の落ちた五十嵐名誉会長より４歳下の近衛輜重隊の部下であった父に、「名誉会長は毎日バナナ二房と色々なものを食べているので元気である…」と伝えたら元気が出て食事も進む様になりました。五十嵐先生ありがとうございました。そして、いつまでもお元気で我々を導いて下さい。

第596号の切り抜きニュースにもあったが、BSEの発生は我々獣医師の仲間が社会に貢献した歴史に残る出来事であった。

2001年から大変苦労を掛けた全頭検査が全国一斉に終了になった。

思い起こせば、当時、さいたま市の大宮と畜場の入り口が何度も報道され、その度に我らの同志が頑張っているのだと思い、「みんなガンバレ！ガンバレ！」と応援したものだ。最初のうちは疑わしい判定が出たら、最終結果が出るのを待つ為に終電に間に合わなくてタクシーで帰宅したと聞いた。これぞまさしく国民生活の安全安心を守る為の獣医師である。10数年間国民、県民の皆様へ安全と安心を届け続けたと畜検査員の先生方や関係者の皆様方に敬意を表しますと共に、大変長い間お疲れ様でした。

台湾で７月16日野生動物のイタチアナグマから狂犬病発生が確認されたと言うニュースが入った。翌17日から台湾は非清浄地域として取り扱うとのことである。今後の報道を見守りたい。

７月17日の午後、農業共済会館４階で埼玉県狂犬病予防協会の総会が開催された。

県が事務局を残した３つの団体の一つで、各市町村、保健所、県獣会員で構成されているが、殆どが集合注射の班単位で支部構成されており、各支部が其々のカラーを出して動物フェアー、犬のしつけ方教室や長寿犬表彰など様々なイベントを活発に開催し、幾つかの支部では市民祭りと共催で開催して数万人の参加者があるとの事である。

また、この総会では埼玉県獣医師会狂犬病予防委員会からの取り組みとして、集合狂犬病予防注射参加者は必ず実施者講習会を受けることを義務づけており、問診、注射、準備係の三名以上は必ず出動すること、そして、事故後の対策は必ず班長や参加獣医師、班内の獣医師等ですぐに対応する様に準備が出来ていること、注射に参加していない獣医師一人は、必ず事故の対応に病院で待機していること等を八木狂犬病予防委員長などが市町村、保健所の皆さんに報告した。

参議員選挙が終わり、ねじれ現象が解消する様だが、強過ぎる政権も危険だが、弱くて進まない歯ぎしりする様な政権は今回経験させられた。国民が選んだ今回の審判を真摯に受け止めて空回りしない政治を是非実行して戴きたい。これは全国民の願いでもあろう。

厚生委員会主催のソフトボール大会が今回は吉見総合グランドで開催される予定だ。石商グランドには大変お世話になりました。なかなか素晴らしいグランドだった。もう既に練習している支部もある様ですが、10月６日を楽しみにしっかり体力をつけましょう。

９月８日は獣医学術関東・東京合同地区学会が群馬県の当番で伊香保温泉で開催される。埼玉県からも昨年の御礼の意味も兼ねて多くの先生方に参加をお願い致します。

今後ますます暑い日が続きそうです。会員の皆様には健康に留意されて暑さを乗り切って戴きますようお願い致します。

（不動）

ノミ・マダニ駆除剤のスタンダード！
ノミの卵・成虫はもちろん、
寄生したマダニも素早く駆除。

動物用医薬品

フロントライン プラス®

ドッグ（犬用ノミ駆除・寄生予防／マダニ・シラミ・ハジラミ駆除剤）
キャット（猫用ノミ駆除・寄生予防／マダニ・ハジラミ駆除剤）

フロントライン プラスの特長

1. フェニルピラゾール系のフィプロニルというノミ・マダニ・シラミ・ハジラミ駆除成分と昆虫成長調節剤の(S)-メトプレンを含有します。
2. 寄生するノミ成虫を24時間以内に、マダニを48時間以内に、シラミ・ハジラミを48時間以内にほぼ100%駆除します。
3. 配合の(S)-メトプレンは、ノミの卵の孵化と幼虫からサナギへの変態を阻害することにより、犬へのノミ寄生を予防します。
4. 優れたノミ駆除および寄生予防効果は約1～3カ月間、マダニ駆除効果は約1カ月間持続します。
5. シャンプーや水浴をしても効果にはほとんど影響しません。
6. 8週齢以上の子犬（体重制限なし）から使用できます。
7. 首甲骨の間に滴下するだけの簡単投与です。
8. 世界113ヵ国以上で愛用される、信頼のブランドです。

今までも、これからも。
ノミ・マダニ対策は、メリアル製品で。

※フロントラインプラス及びサーチフェクトは国内で多くみられる「フタトゲチマダニ」への効果も確認されております。
（フロントラインプラス承認書類・サーチフェクト試験成績より）

一歩進めたマダニ対策に！
マダニの寄生予防と駆除により、
バベシア症とライム病の感染機会を低減。

サーチフェクトの特長

ノミ・マダニ駆除成分のフィプロニルとマダニ駆除成分のアミトラズを配合。それにより、マダニの寄生を予防し、マダニを素早く駆除することでBabesia canisによるバベシア症及びBorrelia burgdorferiによるライム病の感染機会を低減します。また、(S)-メトプレンを配合しているのでノミの寄生予防にも効果があります。

<マダニに対する即効性>
- 寄生するマダニを24時間以内に80%以上駆除
- 寄生するマダニを48時間以内に99%以上駆除

<マダニに対する寄生予防効果>
- マダニが再寄生した場合、犬への接触2時間から駆除効果がみられます。
- 投与後6週間で85%以上の有効性（24時間以内）

動物用医薬品 劇

サーチフェクト®

MERIAL
メリアル・ジャパン株式会社
東京都新宿区西新宿3-20-2

®はメリアルの所有登録商標

コスモ理研株式会社

CRC

感染性廃棄物・廃試薬・有害産業廃棄物の処理のパイオニア

産廃エキスパート・専門性適合
エコアクション21認証・登録
東京都臨床検査技師会指定業者

地球環境への道しるべ　"あんしん"への道

30余年の経験と実績

学校 研究施設
試薬・実験廃液
ホルマリン
アルコール
医療器具・劇薬物品等

病院 医療施設
感染性廃棄物
注射針・メス・検査キット
実験動物・組織等
医療廃棄物全般

役所
残った消毒液
パソコン
汚泥
期限切れ防災用品等

検査機関
各種薬剤
有機・無機・重金属・
砒素・シアン・クロム
水銀化合物等
医薬品・実験器具

処理困難物（内容不明な廃液・試薬）水銀含有物、レセプト、医療機器等々、
その他処分にお困りのものがございましたら、先ずはお気軽にお問い合わせ下さい。

これらの廃棄物は、
㈱クレハ環境、
野村興産㈱、
東京臨海リサイクルパワー㈱
群馬環境リサイクルセンター㈱
シンシア㈱、
都築興産㈱等で
処分を行っています。

本 社:〒111-0053　東京都台東区浅草橋1-34-7　TEL 03-5820-1229　FAX 03-5687-6030

最先端化学技術から生まれた空間除臭・除菌剤

接触感染防止
塩素の3倍
飛沫感染防止
塩素の2.6倍

コスモフレッシュの効果
二酸化塩素徐放技術によって、
単なる消臭剤や芳香剤には不可能な
【除菌】【消臭】【分解】
の3つの効果で
空間全体を衛生的な状態に保ちます

除菌　消臭　防カビ　ウィルス除去

細菌やカビ臭いの元に直接作用して分解除去

動物の気になる
臭いにも絶大な
効果を発揮します

製品ラインナップ

安定化二酸化塩素液
対象物に直接吹きかけて使用する
特徴は強力な消臭効果

二酸化塩素ゲル（専用ファン付）
空間に二酸化塩素を発生させる
特徴は強力な除菌効果

製品に関する
お問い合わせは
コスモ理研㈱まで

本社業務本部	埼玉県越谷市恩間新田70-3	TEL 048-979-6381
関東支社	茨城県水戸市内原町1467-17	TEL 029-259-2951
京葉支社	千葉県八千代市萱丸1077-1	TEL 047-458-4057
埼京支社	埼玉県越谷市恩間新田70-3	TEL 048-978-2621
神奈川支社	神奈川県川崎市多摩区長尾7-17-13	TEL 044-866-4506
群馬支社	群馬県大田市丸山町1334	TEL 0276-36-1888

日本獣医師会・獣医師会活動指針

ー 動物と人の健康は一つ。そして、それは地球の願い。ー

1　地球的課題としての食料・環境問題に対処する上で、生態系の保全とともに、感染症の防御、食料の安定供給などの課題解決に向け、「人と動物の健康は一つと捉え、これが地球環境の保全に、また、安全・安心な社会の実現につながる。」との考え方（One World-One Health）が提唱され、「人と動物が共存して生きる社会」を目指すことが求められている。

2　一方、動物が果たす役割は、食料供給源としてのほか、イヌやネコなどの家庭動物が「家族の一員・生活の伴侶」として国民生活に浸透するとともに、動物が人の医療・介護・福祉や学校教育分野に進出し、また、生物多様性保全における野生動物の存在など、その担うべき社会的役割は重みを増すとともに、一層多様化してきている。

3　他方、国民生活の安全・安心や社会・経済の発展を期する上で、食の安全性の確保や口蹄疫、トリインフルエンザ、狂犬病等に代表される新興・再興感染症に対する備えとともに、家庭動物の飼育が国民生活に普及する中で動物の福祉に配慮した適正飼育の推進が、更には、地球環境問題としての生物多様性の保全や野生鳥獣被害対策を推進する上での野生動物保護管理に対する関心が高まってきている。

4　我々、獣医師は、「日本獣医師会・獣医師倫理綱領ー獣医師の誓い ー95年宣言ー」が規定する専門職職業倫理の理念の下で、動物に関する保健衛生の向上と獣医学術の振興・普及を図ること等を通じ、食の安全性の確保、感染症の防御、動物疾病の診断・治療、更には、野生動物保護管理や動物福祉の増進に寄与するとの責務を担っている。

5　獣医師会は、高度専門職業人としての獣医師が組織する公益団体として、獣医師及び獣医療に対する社会的要請を踏まえ、国民生活の安全保障、動物関連産業界の発展による社会経済の安定、更には、地球環境の保全に寄与することを目的に、「動物と人の健康は一つ。そして、それは地球の願い。」を活動の理念として、国民及び地域社会の理解と信頼の下で、獣医師会活動を推進する。

【参　　考】
「One World-One Health」とは、動物と人及びそれを取り巻く環境（生態系）は、相互につながっていると包括的に捉え、獣医療をはじめ関係する学術分野が「ひとつの健康」の概念を共有して課題解決に当たるべきとの考え。2004年に野生生物保全協会（WSC）が提唱した。また、国際獣疫事務局（OIE）は、2009年に「より安全な世界のための獣医学教育の新展開」に関する勧告において、動物の健康、人の健康は一つであり生態系の健全性の確保につながるとする新たな理念として「One World-One Health」を実行すべきである旨を提唱している。

社団法人日本獣医師会　平成22年度第1回理事会決定（2010年5月）

ASCO

生命をのせて回る地球に、潤い豊かな未来を届けたい。

株式会社 アスコ http://www.asco.sala.jp

国内広域展開の動物用医薬品ディーラー
人と動物の健やかな共生環境づくりに貢献します

本社 〒441-8021 愛知県豊橋市白河町100番地
TEL 0532-34-3821 FAX 0532-33-3611

営業所所在地

・東北支店	仙台、古川、福島
・関東支店	児玉、前橋、松本、旭、茨城、栃木
・CA支店	大阪、京都、名古屋、東京、大宮
・中部支店	豊橋、安城、浜松、沼津、岐阜
・中国支店	広島、福山、山口、岡山、米子